

夢

のある技術で、
みんなの笑顔が見たい!

「ロボぴちゃんくん」

誕生!!

『ロボぴちゃんくん』は、日本の汚れた空気をキレイにするためにダイキン工業株式会社が開発した空気清浄機『フラッシュストリーマ光クリエール』のイメージキャラクターである。

ヴイストーン(株) やまとのぶお 大和 信夫



ロボットをつくる

「このロボットを2ヵ月でつくれますか?」目の前にはプレゼン用のイラストが1枚置かれていた。見覚えのあるキャラクターがおなかに入ったロボット「ロボぴちゃんくん」である。普通なら「無理です」と即答するところだが、「詳しく話を聞かせて下さい」と返答していた。別にロボットに限った話ではなく一般的に新規のものを創るとなると仕様の決定だけでも2ヶ月やそこらはすぐにかかるため、新規開発で2ヵ月なんて話は通常ありえない。しかし、このとき直感的に「このロボットは創れる」、そんな思いが頭の中をよぎった。鉄人28号の話を最初に聞いたときと同じような感覚である。キャラクターロボット開発の話は多く寄せられるが、説明を詳しく聞くまでもないものがほとんどで、具現化するものは少ない。SF小説やアニメ・映画に登場するロボット達は、未来社会の中で実に様々な形で活躍している。パートナーであり、お手伝いであり、先生であり、ヒーローである。ロボットは人間にとって夢の集大成そのものなのだ。そして、映像技術の進化は今まで以上に夢の世界のロボット達をリアルに描き出す。人々の夢はさらに大きくなり、また求める能力もより高くなる。しかも物理現象を超えて描かれる。これに対してリアルな口

ボットはその第1歩を踏み出したに過ぎず、また物理現象の中に存在している。キャラクターロボットの製作が困難極まりない理由はここにある。2次元の世界で活躍するロボットを3次元に変換する作業は、依頼者の目論見ばかりか、それを見る人にとっても大いに期待外れになる場合がほとんどなのである。

「つくれる」から 「創りたい」へ

時間的な問題も含めて、いばらの道が予想された今回の仕事を引き受けたのには理由がある。単に企業のイメージキャラクターの製作依頼なら引き受けていなかった。ダイキンのロボット製作の意図が「創らせてもらいたい」という気持ちを募らせたのだ。子供たちを中心に多くの人々に愛されるようになった「ぴちゃんくん」をロボットという先端技術と融合させ、子供達に夢や希望を与える活動を行う。単にロボットという“モノ”を作るのではなく、一人でも多くの子供達に“夢や希望”を創るひとつの機会としていきたいというのが、このプロジェクトの目指すものである。「ロボぴちゃんくん」は量販店の販売促進イベントでの活動だけでなく、公募を実施して学校を訪問することも企画の早い段階から想定されていた。できあがったロボットのお披露目の場が多く想定されていたのであ

る。このことは二足歩行のサッカーロボット開発を手がける「TeamOSAKA」やロボットを活用したステージショー・科学教育の企画・運営を行う「ロボプロ」の活動を通じて我々が目指すものと見事に合致していたのである。

キャラクター紹介



図1 ぴちゃんくん

まずは「ぴちゃんくん」(図1) 2000年、ダイキンのルームエアコンのキャラクターとして誕生。といっても脇役で、当初は名前もなかったため「水玉くん」などと呼ばれていたらしい。このときのCMを私もよく覚えているが、女優のピピアン・スーさんが出演しているさわやかなイメージのもの。CMを見た視聴者からの問い合わせが多かったことから急遽「ぴちゃんくん」と命名。面白いのはキャラクターの設定で、基本的にゲータラ。カンソウの冬には「うるおい」として歓迎されるが、ムシムシの夏には「シッケ」として嫌われる。無表情、無反応で頭がとにかく大きいのが特徴。

そして「ロボぴちゃんくん」2005年、フラッシュストリーマを搭載して機能